

一般社団法人 日本土壤肥料学会 2018 年度通常総会

議 事

第 1 号議案 2017 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告

I. 2017 (平成 29) 年度事業報告 (平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

- 1) 日本土壤肥料学雑誌 (会誌) は、第 88 巻第 2 号～6 号、第 89 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は次のとおりである。報文 18 編、ノート 12 編、技術レポート 10 編、講座 11 編、解説 3 編、総説 3 編、資料・国内外情報 26 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、技術賞受賞論文要旨 2 編、奨励賞受賞論文要旨 4 編、技術奨励賞受賞論文要旨 2 編、ニュース (地域の動きを含む)、書評、欧文誌 Vol.63 掲載論文要旨、合計 590 頁、ほかに第 88 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより (土壤教育活動だよりを含む) 等。
- 2) Soil Science and Plant Nutrition (欧文誌) は、Vol.63, No.2～No.6 および Vol.64, No.1 の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は、報文 65 編、総説 5 編、会誌報文抄録等、合計 679 頁となった。欧文誌の配布数は、名誉会員 9、正会員 308 (うち海外 20)、学生会員 66 (うち留学生 62)、国内寄贈・交換 5、海外寄贈・交換 16 等であった。
- 3) 日本土壤肥料学会講演要旨集 (第 63 集、307 頁) を 2017 年度仙台大会に際して刊行した。

(2) その他の刊行物

日本土壤肥料学会の編集により、来年度中に Springer 社から The Soil of Japan を刊行することとなり、執筆中である。日本の土壤の生成因子、分類、分布、特徴とともに、北海道・東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿・中国・四国、九州・沖縄における「土壤と農業・環境」を 6 支部が紹介する。

2. 講演会および研究会等の開催

(1) 「土と肥料」の講演会

2017 年 4 月 16 日、通常総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催した。テーマは「肥料技術の来た道行く道」、講演者と演題は小林新氏「肥料技術の現在・過去・未来」であった。講演要旨と講演スライドは学会ホームページに掲載し、会誌第 89 巻 2 号に掲載の予定である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を受けて実施した。

(2) 2017 年度年次大会等

- 1) 2017年9月5日(火)～7日(木)、東北大学青葉山新キャンパスにおいて年次大会を開催した。口頭発表題数は304題、ポスター発表題数は221題、合計525題であった。大会への参加者数は830名であった。
- 2) シンポジウムは、公募による8つのテーマのシンポジウムを実施した。
 - 1,8 部門：物質動態広域評価研究の最前線
 - 1,8 部門：食料生産～消費過程における窒素利用効率と環境への窒素負荷－消費者影響の重要性と活用方向－
 - 3 部門：微生物の力をどう利用するか－現場への適用を目指して－
 - 4 部門：低投入を目指した植物栄養生理
 - 4,7,9 部門：肥料・ミネラルと人の健康
 - 7 部門：肥培管理のためのセンシングや ICT 利用の研究の現状とその実用場面
 - 9 部門：平成 28 年熊本地震が農地・作物に及ぼした影響－今後も起こりうる地震被害に対する土壌肥料分野の貢献－
 - 9 部門：賢者が語る土壌の心髄
- 3) ミニシンポジウムは、以下に示すテーマについて実施した。
 - 5 部門：日本土壌分類体系の概要
- 4) 東北大学百周年記念会館(川内萩ホール)において、以下の講演が行われた(9/6)。

第 62 回日本土壌肥料学会賞受賞者

 - ・石川 覚：イネのカドミウム吸収機構の解明とカドミウムを吸収しない水稻品種「コシヒカリ環 1 号」の開発
 - ・久保寺秀夫：九州沖縄地域の各種土壌が有する問題点の解析と管理指針の提示
 - ・山本洋子：植物細胞におけるアルミニウム障害ならびに耐性機構に関する研究

第 22 回日本土壌肥料学会技術賞受賞者

 - ・原 正之：家畜ふん堆肥の成型技術に関する研究
 - ・藤井弘志：気象変動条件下における水稻の生産性向上のための窒素とケイ酸の肥培管理技術の開発

特別講演：Flavio A. O. Camargo (リオグランデ・ド・スル連邦大学教授)

Soil science : beyond food and fuel – Brazilian agriculture in perspective
土壌科学：食料と燃料の生産を超えて－ブラジル農業の展望
- 5) 第35回日本土壌肥料学会奨励賞(阿部 進、上野大勢、杉原 創、和田慎也)及び第6回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者(岩佐博邦、丹羽勝久)の記念講演については、仙台大会一般講演会場で行われた。
- 6) 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者(森次真一、石橋英二、山本章吾、沖 和生、板橋 直)及び SSPN Award 受賞者(Atfritedy Limin, Mariko Shimizu, Masayoshi Mano, Keisuke Ono, Akira Miyata, Hideo Wada, Haruhiko Nozaki, Ryusuke Hatano)については、仙台大会ポスター会場に受賞記念ポスターを展示した。
- (3) 2017 年度支部大会
 - ・北海道支部：秋季支部大会(11/30 於かでる 2・7 展示ホール 札幌市)が開催された。講演題数はポスター発表 35 題であった。
 - ・東北支部：支部大会(7/11～12 於アイーナ 盛岡市)が開催された。講演題数は

口頭発表 8 題、ポスター発表 11 題、合計 19 題であった。

- ・関東支部：支部大会（11/25 於日本大学生物資源科学部 藤沢市）が開催された。講演題数はポスター発表 49 題であり、高校生ポスター発表が 7 題あった。
- ・中部支部：第 96 回支部例会（3/2 於愛知県産業労働センター ウィンクあいち 名古屋市）および第 97 回支部例会（10/26 於富山県民共生センターサンフォルテ 富山市）が開催された。講演題数は、第 96 回支部例会では口頭発表 15 題、ポスター発表 13 題、第 97 回支部例会では口頭発表 7 題、ポスター発表 8 題であった。
- ・関西支部：支部大会（12/7 於橿原観光ホテル 奈良市）が開催された。講演題数は口頭発表 43 題、参加者は 80 名であった。
- ・九州支部：支部例会（9/21～22 於佐賀大学理工学部 佐賀市）が開催された。講演題数は口頭発表 32 題であった。

(4) その他

- ・日本地球惑星科学連合 2017 年度連合大会（5/21～25 幕張メッセ）のセッション「Biodiversity, nutrients and other materials in ecosystems from headwaters to coasts」を協賛した。
- ・第 30 回環境工学連合講演会（5/23 日本学術会議講堂）を共催した。
- ・第 54 回アイソトープ・放射線研究発表会（7/5～7 東京大学弥生講堂）を共催した。
- ・第 27 回環境工学総合シンポジウム（7/10～12 アクトシティ浜松）を協賛した。
- ・日本学術会議農学委員会農学分科会 公開シンポジウム「魅力ある生産農学教育を目指して」（9/8 日本学術会議講堂）を共催した。
- ・残留性有害物質に関する国際会議 ISPTS2017（9/24～28 名古屋大学東山キャンパス）を後援した。
- ・第 61 回粘土科学討論会（9/25～27 富山大学）を共催した。
- ・エコプロダクツ 2017（12/7～9 東京ビッグサイト）に出展した。
- ・第 33 回近赤外フォーラム（11/15～17 筑波大学国際会議場）を後援した。
- ・日本腐植物質学会第 33 回講演会（11/16～17 山口大学吉田キャンパス）を協賛した。
- ・環境研究総合推進費[2-1601]国民対話シンポジウム「地球温暖化対策の手段としての森林・農業－土壌の役割を中心として」（11/21）を後援した。
- ・平成 29 年度農研機構シンポジウム「放射性セシウム吸収抑制対策の今後を考える」（12/4 コラッセふくしま多目的ホール）を後援した。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

学会賞等選考委員会（10/20）、論文賞等選考委員会（10/20）および第 5 回理事会（10/21）において、日本農学賞の候補者、日本土壌肥料学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞、論文賞および SSPN Award の受賞者が以下のとおり選定された。

第 63 回 日本土壌肥料学会賞

- ・石黒宗秀：土壌中における水・溶質移動と界面電気現象に関する研究

- ・信濃卓郎：作物生産向上のための根圏環境制御に関する植物栄養学的研究
 - ・白戸康人：土壌炭素動態モデルを活用した農地土壌への炭素貯留の評価
- 第 23 回 日本土壌肥料学会技術賞
- ・伊藤豊彰：有機性資源の新しい活用法等を基盤とする環境保全的肥培管理技術に関する研究
 - ・清水 武：作物の養分ストレスに関する研究
- 第 36 回 日本土壌肥料学会奨励賞
- ・大森良弘：フィールドにおけるイネの生育と元素蓄積に関する研究
 - ・清水真理子：草地における炭素・窒素循環計測に基づく温室効果ガス排出に対する施肥管理の影響評価
- 第 7 回 日本土壌肥料学会技術奨励賞
- ・東 英男：安全・高品質米の安定生産に向けた窒素肥沃度管理とカドミウムリスク低減技術の開発
 - ・鎌田 淳：集約的露地野菜及び米・麦二毛作地帯における施肥改善並びに農作物の安全性確保に関する研究
 - ・松本武彦：大規模草地における乳牛ふん尿処理物の肥効評価に基づく環境保全的施肥法に関する研究
- 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者
- ・八木哲生、松本武彦、大友 量、小林創平、三枝俊哉、岡 紀邦：根釧地域の飼料用トウモロコシに対するアーバスキュラー菌根菌の効果を考慮したリン酸施肥基準
 - ・松本成夫、織田健次郎、三輪睿太郎：わが国の食飼料供給に伴う 1992 年から 2007 年までの窒素フローの変遷
- SSPN AWARD 受賞者
- ・ Junta Yanai, Hiroshi Taniguchi and Atsushi Nakao : Evaluation of available silicon content and its determining factors of agricultural soils in Japan

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

(1) 日本農学会関係

- ・平成 29 年度日本農学会シンポジウム「大変動時代の食と農 (10/14)」に協力した。当学会からは、八木一行氏が講演「地球環境と食料・農業に関する国際的な科学と社会のコミュニケーション」を行った。

(2) 日本学術会議関係

- ・日本学術会議IUSS分科会より連絡を受け、IUSS次期役員選挙に協力して実施した（投票期間 10/1～11/20）。

(3) IUSS、ESAFS 等国际活動関係

- ・IUSS の国際土壌 10 年の関連事業としてわが国土壌学の先達(IUSS 名誉会員 久馬一剛氏、熊澤喜久雄氏、和田光史氏) に対するインタビューを実施した。
- ・エチオピア土壌学会 (3 月 エチオピア・アジスアベバ) に代表者を派遣した。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会 (EGU: 4/23-28、ウィーン) に代表者を派遣した。

- ・国際都市土壌会議（5/22～26 ロシア・モスクワ）に代表者を派遣した。
 - ・Global Soil Partnership 総会（6/20～22 イタリア・ローマ）に代表者を派遣した。
 - ・ICOBTE（7/16～20 スイス・チューリッヒ）に代表者を派遣した。
 - ・仙台大会に Prof. Dr. Flavio A. O. Camargo 氏 (IUSS 副会長) を招聘した (9/6)。
 - ・ICSU (International Council for Science) 総会 (10/19～27 台湾・台北) に代表者を派遣した。
 - ・ESAFS (12/12～15 タイ・パタヤ) に代表者を派遣した。
- (4) 科学技術振興機構 (JST) 関係
- ・JST 研究開発戦略センターより、平成 29 年度 JST 俯瞰ワークショップフューチャングリーン～持続可能な農林地利活用を目指して～への研究提案依頼を受け、当学会から 1 および 8 部門長を中心に検討し、「2050 年の日本の農業流域の最適管理手法」を提案した。
- (5) 定期刊行物の寄贈・交換
- 内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。
- ・日本土壌肥料学雑誌 国内 10、国外 14
 - ・Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 16
- (6) その他
- ・第 16 回日本農学進歩賞を南川和則会員と多胡香奈子会員（農研機構農業環境変動研究センター）が受賞した (11/24)。
 - ・志賀弘行会員（北海道立総合研究機構中央農業試験場）と八槇 敦会員（千葉県農林総合研究センター）が平成 29 年度農業技術功労者表彰を受けた (12/8)。

5. 本学会の委員会等活動

(1) 企画委員会

- ・「土と肥料」の講演会を企画し、日本学術会議の後援を受け、東京大学山上会館において開催した(4/16)。
- ・企画委員会を中心とし、広報、渉外、教育、部門長会議等の担当理事で「国際土壌の 10 年」対応準備委員会を組織し、関連事業を企画・実施した。仙台大会において「国際土壌の 10 年」のステッカーを作成し配布するとともに、取組計画状況を紹介した。支部に対して「世界土壌デー」前後に一般向けイベントの開催を呼びかけた。また、世界土壌デー (12/5) の直後に行われたエコプロダクツ 2017 (12/7～9 東京ビッグサイト) において、日本ペドロロジー学会とともに土壌モノリス、パネル等を展示し、国際土壌の 10 年について紹介した。

(2) 土壌教育委員会

- ・小学校学習指導要領 (2017 年 3 月公示) における理科 [第 4 学年] の内容への「土の粒」の追加に関して会長コメントを学会 HP に掲載するとともに、2015 年 1 月に文部科学省に提出した学習指導要領に関する要望書に賛同いただいた関連学会に報告を兼ねた礼状を送付した (2017 年 6 月)。また、「土の粒」に関連する教材開発作業部会を開催し(6/14、7/18、10/12、12/14)、新学習指導要領の該当部分に対する指導案「地面をつくる土の粒と雨水の行方」を作成・公

表し、同指導致案を会長名で、全国都道府県および政令指定都市の教育委員会（67機関）、教科書発行者（42社）および関連学会（19学会）に送付し、参考資料として活用いただくよう依頼した（2018年1月）。

- ・仙台大会において「高校生ポスター発表会」を大会初日の16:00～18:00に開催し（9/5）、15校21課題の発表が行われた。発表会終了後に表彰式を行い、最優秀ポスター賞1課題および優秀ポスター賞3課題に賞状と副賞を授与した。また、参加校のうち希望校7校に宿泊費の一部を補助した。
- ・北オホーツク道立自然公園内ベニヤ原生花園前に野外観察板（北海道天北地方に分布する砂丘ポドゾル）を設置し、北海道枝幸郡浜頓別町に寄贈した（10/19）。
- ・関東支部大会（日本大学生物資源科学部）における高校生ポスター発表会をサポートした（11/25）。高校生ポスター発表会には7課題（5校）の参加があり、最優秀賞1課題および優秀賞2課題が表彰された。

(3) 広報委員会

- ・学会HPのお知らせ欄を改定して「主催講演会等の資料」の頁を作成し、「土と肥料」の講演会概要等の記事を掲載した。
- ・学会HPに2017年度日本土壌肥料学会賞等授賞式・記念講演会の概要を掲載した。
- ・学会HPに掲載した記事をフェイスブックにも掲載した。
- ・「エコプロダクツ2017」（12/7～9東京ビッグサイト）に日本ペドロロジー学会とともにブースを出展した。

(4) 財政基盤整備委員会

- ・財政基盤整備委員会において、学会の会員数、収支決算、正味財産額等の推移を解析し、収入の拡大、支出の削減、事業活動を確保するために配慮すべき事項等について検討した。
- ・財政基盤整備委員会に会長、副会長を加えた拡大財政基盤整備委員会を組織し、会費等の改定について検討した。

(5) その他

- ・男女共同参画学協会にオブザーバー参加、連絡会や学協会が企画する大規模アンケートや未来の女性科学者を育てるための体験型サイエンスプログラムに参加した。

6. 会務報告

(1) 会員の動向

1) 2018年2月末における会員数は次のとおりである。

正会員 1,842名（うち会費免除会員 88名、外国正会員 36名）、賛助会員 37団体、名誉会員 12名、学生会員 354名（うち留学生 77名）、国内団体購読会員 101団体 合計 2,346名（団体）

2) 2017年度中の入退会者数は次のとおりである。

入会：正会員 99名（うち海外正会員 3名）、学生会員 144名（うち留学生 26名） 合計 243名

退会：正会員 142名（うち会費免除会員 9名、海外正会員 2名）、学生会員 151

名（うち留学生 17 名）、賛助会員 3 団体、国内団体購読会員 6 団体 合計 302 名（団体）

(2) 会議

- 1) 総会：2017 年 4 月 16 日、東京大学山上会館において第 40 回通常総会が開催された。本総会においては、①2016 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告、②2017 年度事業計画案および収支予算案、③役員の新任・退任、④名誉会員の推薦、⑤総会議事録署名人の選任について審議され、各議案とも、原案どおり承認された。その議事録を会誌 88 巻第 3 号に掲載した。
- 2) 理事会：東京大学山上会館において 1 回、学会事務所において 7 回開催され、所要の事項・会務を報告・審議した。その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、①理事会の代表理事の選定及びその他役職・担当の決定、②平成 30 年度日本農学会シンポジウムのテーマ案、③仙台大会での学会賞等授賞式並びに記念講演のタイムスケジュールおよびシンポジウムの構成、④会誌投稿規程・執筆規程の改定、⑤会誌における SSPN 掲載論文紹介の企画、⑥欧文誌編集委員の交代、⑦部門長の交代、⑧論文賞及び SSPN Award 選考内規の一部改訂、⑨国際活動関連の諸案件、⑩国際土壌の 10 年に関する取組み、⑪部門長会議提案による欧文誌レビュー案、⑫若手会員海外渡航費の支援、⑬日本農芸化学会との共催シンポジウム、⑭2017 年度学会賞等及び論文賞等の選考結果の承認、⑮2018 神奈川大会の予算案、⑯2019 年度年次大会の開催場所・日時・組織体制、⑰旅費交通費支給に関する内規の一部改訂、⑱若手会員支援（海外渡航費支援）に関する内規の一部改訂、⑲共催・後援・協賛等の申請、⑳細則 23 条による会費免除の申請、入退会者の承認等について審議した。
- 3) 部門長会議：①第 1 回部門長会議はメール会議で実施した（4/11～4/20）。仙台大会におけるシンポジウムの公募に対して 8 件の応募があり、いずれも採択されたが、数が多いことから運営本部の負担増、口頭発表への影響が危惧された。事後評価を行い、今後はシンポジウム数上限の検討も必要と考えられた。また、テーマ別進歩総説について、第 6 部門より企画案の提出・編集等への協力依頼がなされた。②第 2 回部門長会議（6/11）においては、仙台大会のプログラム編成、シンポジウム企画案、ポスター賞の各部門への割当数及び審査スケジュール、部門長・副部門長の交代、欧文誌レビュー等について検討した。③第 3 回部門長会議（11/19）においては、2017 年度仙台大会の結果概要、2018 年度神奈川大会の準備状況について報告された。また、神奈川大会における第 9 部門の重複発表の扱い、シンポジウムの採択方法、日本農芸化学会との共催シンポジウム、口頭発表での発表スライドの形式等について審議した。
- 4) 2017 年度学会賞等選考委員会：学会事務所において、会長を議長として開催し、平成 30 年度日本農学賞候補者、第 63 回日本土壌肥料学会賞、第 23 回同技術賞、第 36 回同奨励賞、第 7 回同技術奨励賞および第 7 回同貢献賞の受賞者を選考した（10/20）。その結果は第 5 回理事会（10/21）での承認を経て、会誌 88 巻第 6 号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文と、SSPN Award 受賞論文を選考した。その結

果も第5回理事会での承認を経て、会誌88巻第6号に掲載した。

- 5) 会誌編集関係：常任編集委員会を2回、地域担当編集委員との合同編集委員会を1回開催した。①投稿状況については、この2～3年の間、報文・ノートの投稿数が少なく推移してきたが、多少回復の兆しが見える。②日本土壌肥科学雑誌は第88巻1号(2017)まで、日本土壌肥科学会講演要旨集は第62集(佐賀大会2016)までJ-STAGEに公開した。今後、日本土壌肥科学雑誌は発刊から1年後、講演要旨集については大会終了後できるだけ速やかに公開の予定である。③オンライン投稿・査読システムを導入し、それに伴い投稿規程・執筆規程を改訂した。
- 6) 欧文誌編集関係：①SSPN投稿・編集状況が報告された。2017年の投稿数は昨年、一昨年より多く、ほぼ回復している。②部門長会議提案の欧文誌レビュー5件の企画が進められている。③SSPN特集については、Rice GHG (Frontline research in mitigating greenhouse gas emissions from paddy fields)が64巻1号に掲載され、他に2件の企画が進められている。④ジャーナルの評価については、インパクトファクターだけでなくオルトメトリックスやORCID (Open Researcher and Contributor ID)への対応も検討する必要がある。

7) 支部における会議

北海道支部：第1回支部評議員会(6/7 於北海道大学エンレイソウ 札幌市)、第2回支部評議員会および支部総会(11/30 於かでの2・7 札幌市)が開催された。

東北支部：支部総会(7/11 於アイーナ 盛岡市)が開催された。

関東支部：支部幹事会および支部総会(11/25 於日本大学生物資源科学部 藤沢市)が開催された。

中部支部：159回支部評議員会および77回支部総会(3/2 於愛知県産業労働センター ウィンクあいち 名古屋市)が開催された。160回支部評議員会(5/24 於名古屋国際センター 名古屋市)が開催された。161回支部評議員会および78回支部総会(10/26 於富山県民共生センター「サンフォルテ」 富山市)が開催された。

関西支部：支部役員会(12/9 於橿原観光ホテル 奈良市)が開催された。

九州支部：支部常議員会、支部賞選考委員会(9/21 於佐賀大学理工学部 佐賀市)および支部総会(9/22 於同会場)が開催された。

(3) その他

- ・若手会員の海外学会等の参加渡航費補助金支給者の選考を行い、前期5名、後期6名に渡航費の一部支援を行った。
- ・2019年度年次大会は森田明雄氏(静岡大)を大会運営委員長とし、2019年9月3日(月)～5日(水)、静岡大学(静岡キャンパス)において開催することを決定した。